

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE WINTER EDITION

北星学園大学

北星学園大学短期大学部



02-03

[地域交流]
子どもたちとっしょに
メリークリスマス!

- 北星チャペルでクリスマス
- 大きなクリスマスツリー点灯式



02-03

[地域交流事例]
ほかにもこんな
クリスマスイベントが
開催されました。

- 吹奏楽部によるコンサート
- クリスマスチャペルコンサート
～響け! 平和と喜びの歌～
- クリスマス礼拝
- ゴスペルレッスン生による
ゴスペルコンサート
- ハンドベルクワイア
クリスマスコンサート

04-05

[学生団体活動]

学生による、学生のための
キャンパスライフ・サポーター。
～北星学園大学における学生団体の取り組み～

- 国際ラウンジ学生委員 リーダー
文学部英文学科4年
柴野 円花さん
- 副リーダー
経済学部経済学科3年
大久 弥風さん
- 交換留学生
ターシャ・アディントンさん
アメリカ ルイス&クラーク大学



06

[OB&OGインタビュー]
卒業生は、いま。

ドイツで手に入れた、
自分らしい人生の歩き方。

サンデンインターナショナルリミテッド
ドイツ支店勤務
伊藤 大介 さん
(経済学部経済学科卒業)



07

[OB&OGインタビュー]
卒業生は、いま。

この街をステージに、
音楽の夢を奏で続ける。

「Drop's」ベーシスト
小田 満美子 さん
(文学部英文学科卒業)



08

[HOKUSEI INFORMATION]
北星学園大学からのお知らせ

「第4回北海道フランス語
暗唱コンクール」で
本学学生が優勝しました!

文学部英文学科3年
近藤 莉子さん

[北星学園大学
オリジナルグッズが当たる]
まちがいさがしクイズ



子どもたちといっしょに メリークリスマス！

～北星チャペルでクリスマス＆大きなクリスマスツリー点灯式～

キリスト教の精神を礎とする北星学園大学。

12月に入るとキャンパスはクリスマスムードが一気に盛り上がります。

多彩なクリスマスイベントは、学内だけでなく地域のみなさまにも毎年大好評。

大学と地域の絆を深める機会にもなっています。



キリスト教では12月25日までの4週間を「アドベント(Advent)」と呼び、イエス・キリストの降誕を待ち望む期間として大切にしています。欧米ではクリスマスツリーの準備をしたり、4本のろうそくを用意して1週ごとに1本ずつ火を灯したり、アドベントカレンダーを毎日めくってお菓子を食べたりしながら、クリスマスまでの日々を楽しみます。

北星学園大学のクリスマスイベントは12月1日からスタート。毎年この日は地域の子どもたちをお招きしてクリスマス会を行っています。今年は大谷地東小学校と北野台小学校の子どもたちなど32名とそのご家族が北星のチャペルに集まり、パイ



子どもたちにも学生にも実りあるひとときを

クリスマス会を主催したスミス・ミッションセンターの日高嘉彦チャプレンは「クリスマスは本学にとって大切な行事であると同時に、地域のみなさまに本学らしい雰囲気を感じていただく良い機会。子どもたちにも楽しい思い出を持ち帰ってもらえればうれしいですね」と目を細めます。学生たちにとっても子どもや保護者など幅広い世代の方たちとの交流は、社交性や思いやりの心を育む貴重な機会となっているそうです。運営をサポートした経済



学科・勝村務准教授のゼミ生たち、美しい歌声を聴かせてくれたチャペル・クワイヤ、ゴスペルサークル「North Star Bible Club」など、運営をサポートしたみんなの「クリスマスを楽しんでほしい」という思いはきっと子どもたちに伝わったはず。クリスマス会終了後は中庭で「大きなクリスマスツリー点灯式」。子どもたちが作ったキャンドルライトがツリーの周りを彩り、クリスマス会参加者や学生、教職員など大勢が見守る中でカウントダウンがスタート。木に取り付けたイルミネーションが色とりどりの光を放った瞬間、歓声と拍手に包まれました。

地域のみなさん、メリークリスマス。そして良い新年をお迎えください。



大学の近くにお住まいの青木さん
毎年大学祭を訪れて家族で楽しませてもらっています。クリスマス会は初参加でしたが、チャペルはとても良い雰囲気でクリスマス気分を満喫できました。学生のみなさんも一生懸命で感じが良く、キャンパス内もとてもきれいです。子どもたちが将来入学してもいいな、と思っています。

ゴスペルでクリスマスを祝う 意味を知ってほしい。

ゴスペルサークル「North Star Bible Club (NSBC)」代表
福原 采さん
社会福祉学部 福祉臨床学科3年



NSBCのメンバー(左から森さん、福原さん、塚崎さん、井上さん)

ゴスペルは、讃美歌とは違ったスタイルでキリスト教の意義を感じさせてくれる音楽です。NSBCは歌うことが大好きなメンバーが集まり、2か月に1度のチャペルコンサートのほか、地域の町内会やクリスマスイベントに出演させていただいています。クリスマスに関連する曲はたくさんあるので選曲に悩みましたが、今回は「Go Tell It On The Mountain」をセレクトしました。明るく軽やかな曲調で「イエス様の生誕を世界中に知らせよう」と歌い上げる曲です。学業が忙しい時期で練習時間もメンバーもなかなか確保できなかったのですが、聴いてくださったみなさんが楽しい気持ちになり、クリスマスをお祝いの意味を知ってくださったならとてもうれしく思います。

クリスマス会に参加しました！

はるき
陽聖くん(北野幼稚園)
サンタクロースができてびっくりした！
おかしとぶんぼうぐをもらってうれしかった。



ひなた
陽咲ちゃん
(大谷地東小学校1年)
キャンドルライトをつくるのが楽しかった！大学生のお兄さん・お姉さんもやさしくてたくさんお話したよ。大きなクリスマスツリーもきれいだったよ。

ほかにもこんなクリスマスイベントが開催されました。



◎12月6日(火)
吹奏楽部によるコンサート



◎12月14日(水)
クリスマスチャペルコンサート～響け！ 平和と喜びの歌～
吉村美穂(クリスチャンシンガー) & 北星チャペルクワイヤ
野田常喜(ピアノ奏者)



◎12月16日(金)
クリスマス礼拝(キャンドルサービス)

◎12月21日(水)
ゴスペルレッスン生によるゴスペルコンサート

◎12月23日(金・祝)
ハンドベルクワイアクリスマスコンサート

※写真は昨年ようす

学生による、学生のための キャンパスライフ・サポーター

～北星学園大学における学生団体の取り組み～

実りある大学生生活を学生の目線で考え、学生自身の手で実現していくために、北星学園大学ではさまざまな学生団体が主体的に活動しています。彼らはいわば、学生による学生のためのキャンパスライフ・サポーター。その活動の様子をご紹介します。



海外留学生と本学学生の友情の架け橋に——国際ラウンジ学生チーム「HUIT」



国際ラウンジ学生委員 リーダー
文学部英文学科4年
柴野 円花さん



副リーダー
経済学部経済学科3年
大久 弥凧さん

生・本学学生合わせて50名以上が参加しました。最初はお互いごちなかつたものの、ゲームが始まるとハイタッチしたり笑いあったり。寒さと言葉の壁も吹き飛ばす熱戦が繰り広げられました。

企画・運営を通じて人間的にも大きく成長

HUIT初代リーダーの柴野さんは高校・大学と二度にわたり海外留学。留学先の学内イベントを通じて交友関係を広げてきた経験から「海外留学生はもちろん本学学生にも国境を越えた友だちづくりを楽しんでほしい」と語ります。一方、副リーダーの大久さんは経済学科、しかも留学未経験。英語への苦手意識がありましたが、授業の一環で札幌在住の外国人にインタビューしたことをきっかけに「もっと世界の人々と交流したい」と思いHUITに参加しました。

今回のドッジボール企画は「ふだん海外留学生と交流のない学生にも国際交流の楽しさを知ってほしい」との思いから発案。開催までの道のりは、ふたりにさまざまな発見をもたらしたようです。「告知チラシの制作やウェブエントリーシステムの構築など、メンバーそれぞれが得意分野を活かしてイベントを成功させることができました。海外生活の影響もあり、今までは団体行動よりもひとりで行動することを好んでいたのですが、仲間力を合わせてひとつの目標を達成する素晴らしさを実感。今後の人生に必要なことを学べた気がします」と柴野さん。大久さんも「言葉が通じなくても心を通わせるスポーツの力はすごい！ 来春、ワーキングホリデーでカナダに1年間滞在する予定ですが、“心の対話”を楽しみたいと思います」と笑顔で語ってくれました。

学生らしいアイデアで国際交流の場を創造

センター棟1階にある「国際ラウンジ」は、海外からの留学生と本学の学生が各国言語で交流したり、国際関連イベントが開催されるスペースとして利用されています。この国際ラウンジを本学の国際交流拠点としていっそう活性化していこうと、2016年春に国際ラウンジ学生チーム「HUIT」(ヒュイト：Hokusei Gakuen University International Team)が発足しました。HUITはフランス語で「8」の意味。これを「∞」と置き換え、無限のパワーで本学の国際交流をリードしていこうという思いがこめられています。

HUITは、これまでに海外留学生向けのウェルカムイベントや星学祭(学園祭)での国際交流ゲームなどを企画・実施してきました。11月16日(水)には体育館メインアリーナで「ドッジボールマッチ」を開催。海外留学





学生団体の活動は多彩！
その一部をご紹介します。

◎北星ピア・サポーター



在学生の学びを支援することを目的に、大学・短期大学部の各学科の学生によって組織されています。普段はセンター棟2F「ラーニング・commons」で相談業務を行っていますが、入学シーズンには大学生活に慣れない新入生のために大学生活や単位履修に関する説明会を開催。そのほか学科ごとに学生目線で考えた企画なども行っています。今年度は経済学科による「新聞を読もうの会」、心理・応用コミュニケーション学科による「日本語検定講座」などが行われました。

イベントを通じて
たくさんの出会いを
楽しんでいます。

交換留学生
ターシャ・アディントンさん
アメリカ ルイス&クラーク大学



札幌の姉妹都市であるポートランド市から9月に来日。ふだんから国際ラウンジを利用することが多く、HUITのメンバーとはすぐに友だちになったのですが、日本の学生と知り合う機会がなかなか持てずにいました。今日はドッジボールを通じていろいろな人と知り合うことができ、とても楽しかったです。話した人が多すぎて名前を覚えきれなかったほど！日本の学生は初対面では少しシャイだけど、いったん打ち解けるととても親身に接してくれて、すごくうれしく思います。日本の生活で一番印象的だったのは「NABE」。ひとつの鍋を大勢で囲む料理はアメリカにはない食文化だし、とにかくオイシイ！大好きになりました。12月に留学を終え、帰国前に東京で神社仏閣を見てこようと思っていますが、北星で出会ったたくさんの友だちに日本語を教わったので、自信をもって一人旅を楽しめそうです。

◎学生広報委員会



学生広報委員(愛称「キタボシ」)は、学生の視点を活かして北星学園大学の魅力を発信することを目指し、大学の広報委員会と連携しながら広報誌やオリジナルグッズの企画などを行っています。2016年には札幌の人気洋菓子店「きのとや」とのコラボレーションスイーツ「北星オリジナルクッキー」や北星オリジナル鉛筆の商品化を実現しました。大学祭では記者会見ボードをイメージした記念撮影ブースを展開し、地域の皆さまに喜んでいただきました。今後は学生広報委員が企画から発行までを手掛ける広報誌の制作、大学サイト内でのニュースコンテンツの展開を予定しています。

◎HONTAN



本学図書館の学生ボランティアとして、学生目線の展示を通じて貸出促進を目指しています。折々のテーマに合わせて本をセレクトし、大きな黒板を利用して絵や文字等で紹介する「学生展示」、新刊本の帯に書かれた内容からテーマを決めて本を紹介する「帯展示」、図書館を利用する人が思わず手に取りたくなるような「DVD展示」など、展示方法にもアイデアを凝らしています。また、機関誌を作成してメンバーのおすすめ本やDVD、雑誌などを紹介しているほか、催事の企画や準備、運営なども行っています。



OB & OG Interview

卒業生は、いま。

ドイツで手に入れた、自分らしい人生の歩き方。

留学＝英文学科のイメージを持つ方が多いかもしれませんが、実はそうとは限りません。アメリカ留学を経て卒業後にドイツへ移住。現地の日本企業で働きながら世界中を旅する伊藤さんは本学経済学部経済学科出身。世界を目指す情熱に学科の壁はありません。

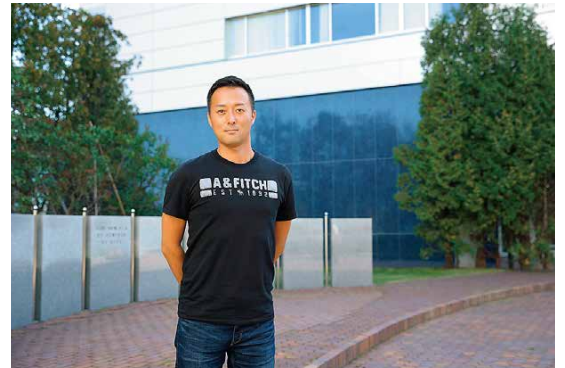
サンデンインターナショナルリミテッド
ドイツ支店勤務
いとう だいすけ
伊藤 大介 さん
1996年北星学園大学経済学部経済学科卒業



カーコンプレッサーや自動販売機の分野で高いグローバルシェアを誇るサンデンインターナショナル。世界中の人が働くオフィスでは英語やドイツ語のほかフランス語やポーランド語、ヒンドゥー語なども聞こえてきます。



セルビアの首都・ベオグラードで、現地の親しい友人たちとともに。夏にはこのメンバーでアドリア海へも一緒に遊びに行きました。



経済を学びながらアメリカへ留学

海外を意識し始めたのは大学受験の時。なのになぜ英文学科ではなく経済学科?と訊かれることが多いのですが、英文学科出身で英語が話せても当たり前。経済の知識を持って英語でコミュニケーションができれば、将来の選択肢がぐんと広がると考えたのです。そして2年次にカリフォルニア州のフレズノパシフィック大学に留学したものの、英検2級程度では全く会話ができない。当時はインターネットなどの情報源もなかったので、大学の学生交流イベントに参加したりして英語を覚えていきました。そして1年の留学を終えて帰国する直前、ドイツ人の友人に誘われてミュンヘンに滞在。ドイツの文化や気候が気に入り、移住を決めました。

卒業後にドイツ移住し現地で就職

北星では、1年生から英語とドイツ語の両方を履修し、ドイツ語は3年生まで続けました。卒業後はアルバイトで資金を貯めてフランクフルトに移住。語学学校に通いながら仕事を探し、現地の小さな旅行会社に就職したのち、現在の会社に転職しました。今の職場はドイツ、インド、フランスなど17カ国150人の社員が所属し、社内はとても国際色豊か。日本企業なので日本人も10名ほどいますが、社内で使う言語は英語とドイツ語がほとんどです。ドイツは税金は高いけれど、ソーシャルケアや福利厚生がとても充実していて暮らしやすいですね。まとまった休暇も取りやすいので、毎年2週間ほど日本に帰国しています。

世界80カ国以上を旅する人生を満喫中

趣味は旅行。フランクフルトには欧州の拠点空港があるので、週末ごとに旅を楽しんでいます。これまでに世界80カ国以上を訪問。先々週はコートダジュール、来月以降はルーマニア、オランダ、ブルガリア、ケニアと旅の予定が目白押しです。未知の文化や価値観に出会える旅は、私にとって何ものにも代えがたい大切なもの。日本では難しいライフスタイルを手に入れたのも、すべては北星から始まりました。経済を学びながら英語を学び、国際交流委員会で留学生と交流し、海外への思いをふくらませた日々を思い出します。現在は国際交流や留学、海外研修など、私が学生だった頃よりも海外を意識するチャンスがたくさん用意されていると思いますが、それをどう活かすかは自分次第。人一倍努力する覚悟がある限り、世界の扉はみなさんの前に開かれます。

この街をステージに、 音楽の夢を奏で続ける。

高校3年生のデビュー以来、ガールズバンドの枠を超えたブルースロックのスピリットあふれる骨太なサウンドで注目を集め続ける「Drop's」^{ドロップス}。ベース担当の小田さんは本学で大学生活とバンド活動を両立させ、今春卒業しました。10月10日(月・祝)には「第55回星学祭」ライブイベントに出演。熱気さめやらぬステージ終了後にお話を伺いました。



「Drop's」ベーシスト
おだ まみこ
小田 満美子 さん
2016年北星学園大学文学部英文学科卒業



[Drop's]
札幌開成高校出身の中野ミホ (Vo&G)、荒谷朋美 (G)、小田満美子 (B)、石橋わか乃 (key)、奥山レイカ (Dr) の5人から成るロックバンド。2010年夏に高校生バンドコンテストでグランプリを獲得し、2011年に1stアルバムをリリース。全国各地のライブのほか、2012年「JOIN ALIVE」、2015年「RISING SUN ROCK FESTIVAL」などイベント・フェス出演多数。

高校の軽音楽部から「Drop's」誕生

Drop'sのルーツは高校時代。軽音楽部で出会った女子5人でバンドを組んだのがきっかけです。私は「なんとなく面白そう」と気軽に入部したのですが、もともとロック好きだった中野(ボーカル)の影響で音楽にのめり込んでいきました。ベースを弾くのも初めてだったから、最初は楽譜を見ながら訳もわからず無我夢中。2年の夏に「ただでライブができる!」と軽い気持ちで出場した高校生バンドコンテストで優勝しました。この頃のDrop'sを改めて聴くと、物凄いパワーに我ながら驚きますね。迷いや悩みの多い十代の鬱憤をステージで晴らしていたのかもかもしれません。

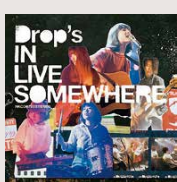
大学生活とバンド活動を両立させた4年間

高校3年の夏休みにライブツアーを敢行。音楽で勝負したいという意識がバンド内に芽生えつつありましたが、私は大学進学とバンド活動を両立したいと考えていました。レコード会社の理解もあり、在学中の4年間はバンド活動を週末や夏休みに集中させ、好きな英語の勉強に打ち込むことができました。ゼミではアメリカ文学を専攻。英米の詩や小説を読み、文化的背景の理解を深め、卒業制作として英文小説を創作しました。先生方もバンド活動に理解を示してくださり、中にはライブを観に来てくださった先生も。卒業して半年、母校の大学祭でステージに立つことができ、本当にうれしく思います。

札幌から生まれる音楽を大切にしたい

Drop'sは中野のソウルフルなボーカルが際立っていますが、ガールズバンドの枠に収まらないブルースロックのリズムにメロディアスなキーボードが乗ってくるサウンドにオリジナリティがあると思います。歌詞に表れる北国らしい風景も、札幌で生まれ育った私たちだから表現できる世界。自分たちのベースでバンド活動を続けていく上でこの先も、住み慣れた札幌で生まれた音楽を大切にしていきたいと思っています。「Drop's」のファンは大人世代が多いのですが、もっと若い世代にも聴いてもらいたいですね。夢は「FUJI ROCK FESTIVAL」出演。これまでにも「JOIN ALIVE」「RISING SUN ROCK FESTIVAL」など、憧れのステージに立つ夢をかなえてきました。好きなことをやり続けられれば、きっと夢に辿りつくと思っています。

Drop's CD&ライブ情報



ライブ会場&通販限定販売ライブCD
「IN LIVE SOMEWHERE」
定価 1,389円(税別)



Drop's ONEMAN LIVE 「SWEET JOURNEY BLUES」
【日時】2017年1月8日(日)開場16:30 / 開演17:00
【会場】札幌 cube garden
【チケット】発売中!
オールスタンディング / 入場整理券番号付
前売 3,500円(税込+1ドリンク¥500)
公演詳細: drops-official.com



TOPICS

「第4回北海道フランス語暗唱コンクール」で 本学学生が優勝しました!

11月3日に開催された「第4回北海道フランス語暗唱コンクール」(主催:北海道新聞社、札幌日仏協会/アリアンス・フランセーズ)において、本学文学部英文学科3年の近藤莉子さんが優勝しました。同コンクールは2013年から開催されており、毎年本学学生・卒業生が受賞しています(2013年:優勝、2014年:2位、2015年:奨励賞)。37名の応募者のうち近藤さんを含む14名が一次審査を通過し、ファイナリストとして決勝大会に出場。近藤さんはアンドレ・シュティッドの詩「希望」を素晴らしい発音と表現力で暗唱し、見事に優勝しました。



言葉を大切に扱い、
楽しみながら
本番に臨みました。

こんどう りこ
近藤 莉子 さん



担当の先生と

日本語はもちろん第2言語である英語でさえ読解や表現は難しいのに、第3言語であるフランス語での挑戦は容易ではありませんでした。何度練習してもきれいな発音や良い表現ができず、試行錯誤の繰り返し。しかし、先生から「自分が世界で一番うまいと思って読みなさい」と助言を受け、本番では緊張しながらも楽しんで読むことができました。フランス語暗唱コンクールは今回初参加だったので、優勝者として名前を呼ばれた時は本当に信じられませんでした。今回の経験を通じて「伝える」ことは単に言葉を発することではなく、一つひとつの言葉に気持ちを込めて大切に扱うことなのだ実感。さらなる学びの意欲がかきたてられました。

北星学園大学オリジナルグッズが当たる!

まちがいさがしクイズ

北星学園大学構内をご紹介する2枚の写真を見比べて、右の写真の6個の間違いを探してください。ハガキに答えを記入して応募すると、抽選で10名様に北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス!

[今号のまちがいさがしスポット]
図書館

約56万冊を収蔵する北星学園大学図書館。専門書や一般書籍のほか、雑誌や新聞なども取り揃えています。一般の方や高校生も利用できます(一部利用制限あり)。詳しくは図書館ホームページ(<http://library.hokusei.ac.jp>)をご覧ください。



★応募要項

ハガキに以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

- ①問題の答え(まちがい6個) ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤電話番号 ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先:〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係

2017年1月31日(火)必着

★正解発表

『HOKUSEI@COM』23号(2017年8月発行予定)に掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の中から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

[前号の正解]

